

## 会議録

会 議 名	第2回 八王子まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日 時	平成27年7月28日（火） 午後7時 ～ 8時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 803会議室	
出席者氏名	参加者	芦川正明、石川敏之、伊藤史子、大島紀代、落合隆、栗本正男、嵯峨洋輔、中庭光彦
	事務局	伊藤紀彦（都市戦略部長）、立川寛之（都市戦略課長）、今井明（都市戦略課主査）、実森将人（都市戦略課主任）、金子正明（都市戦略課主事）、佐藤幾子（都市戦略課主事）
	その他市出席者	木内基容子（総合経営部長）、大野哲宏（市民活動推進部長）、小澤篤子（子ども家庭部長）、駒沢広行（都市計画部長）
欠席者氏名	高橋新也、前田伸也	
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 人口ビジョンについて</li> <li>3. 総合戦略について</li> <li>4. 今後のスケジュールについて</li> <li>5. その他</li> <li>6. 閉 会</li> </ol>	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 人口ビジョンについて 資料2 八王子市総合戦略のイメージ（案） 資料3 今後のスケジュール 資料4 八王子市シティプロモーション基本方針 資料5 第1回懇談会議事録	
会議の内容	別紙のとおり	

## 1. 開会

## 2. 人口ビジョンについて

《説明》

【事務局】

（配布資料1についての説明）

- ・ 配付資料は、記載した条件にもとづき人口推計の試算を行った結果である。今後、住民基本台帳における移動率等を踏まえ、前提条件を検討する。
- ・ 前提条件が現状値のまま推移した場合の推計のほか、出生率等について施策の効果を踏まえたシミュレーションも行う予定である。

《質疑》

【石川氏】

- ・ 世帯数の推計は行っているのか。また、外国人市民の人口推計は行っているのか。

（事務局から説明）

- ・ 世帯数についての推計は行っていないが、人口に比例して減少していくことが想定される。
- ・ 人口推計は外国人市民を含めた総数で行っている。個別に推計を行う必要があるかについては今後検討が必要である。

【伊藤氏】

- ・ 住民基本台帳上、人口が既に減少傾向にあるという事実は人口推計で示すべきである。
- ・ 推計の前提条件は一つだけでなく、複数のパターンで示していくと分かりやすいと思う。
- ・ 八王子市は学生が多く、若年層に単身世帯が多いことが特徴である。将来の推計までは行わないとしても、そのような状況であるという事は現状分析を行う必要はあると感じる。

（事務局から説明）

- ・ 人口推計については、複数のパターンを示していく予定である。
- ・ 世帯数については、現状分析を行ったうえで人口ビジョンでどのように表現するか検討したい。

【中庭氏】

- ・ 人口ビジョンは、どのような位置づけとなるものか。

（事務局から説明）

- ・ 国は、各地方において今後の人口推移が客観的にどのように変化していくのかを明らかにし客観的に見たうえで総合戦略を策定するように求めている。本市においても将来に向けた施策の根拠となるものとする。

## 3. 総合戦略について

《説明》

【事務局】

（配布資料2についての説明）

《質疑》

【芦川氏】

- ・ 都の中でも、区部と八王子市とでは状況が異なる。国の言う東京一極集中は、区部のことを言っていると思う。区部との比較を行い、市としての危機感を持つような位置づけにすることが必要ではないか。

- ・20代、30代、大学生とターゲットを絞ってシティプロモーションを行うという事であれば、総合戦略としても重点を示すと良いのではないか。
- ・特区を活用して産業振興を行うのであれば、具体的に総合戦略で示すことで、政策軸の大きな柱となるのではないか。

(事務局から説明)

- ・区部と本市の立ち位置は異なると考えている。ストレートに表現はしていないが、各政策軸を回し続けることで定住人口を維持したいという考えは持っている。

【石川氏】

- ・政策軸の中にある、「本市の特性」とは何か。
- ・まちづくりについては、人に優しいまちづくりがどれだけできているのか、という事が一番大きいと考えている。
- ・中心市街地では、店主の高齢化も進み、空き店舗も増えてくる状況である。その中で地域の産業をどれだけ保護できるかどうかという点も、まちづくりの中では大きいのではないか。
- ・ひとつづくりには、子育てしやすい環境整備が出来ているかどうかという事が一番大きい。
- ・しごとづくりでは、雇用の質をどの様に確保していくか、という事が大きい。
- ・魅力の発信としては、文化の継承という部分が大きい。かつて市内にあった酒蔵は全て廃業をしてしまっている。これまでつないできたものをどう残していくか。特色あるものをもっといかせるようにしてほしい。

(事務局から説明)

- ・政策軸1では、市西側の市街化調整区域における沿道集落をどう維持し、活力を取り戻すのか、という部分や、既にインフラが整っているニュータウンにおいて今後どのような取り組みが必要か、といった部分など、本市はエリアごとに特性が異なることから、まちづくりも画一的なものではないものとする必要がある、ということ念頭に置いている。
- ・政策軸4では、本市の歴史・文化や自然と都市部の近接といった、ソフト面での展開が出来るものを想定している。

【伊藤氏】

- ・配付資料の、総合戦略のイメージ案について、政策軸ごとに八王子ビジョン2022にどのような事業があるかという事をもう少し出してほしかった。そうすれば、各参加者から色々なアイデアが出ると思う。
- ・まちづくりの部分で、八王子市は中心部と、ニュータウン、西部の自然の部分に分けられ、それぞれ住民の意識も異なる。
- ・まちづくりは、人に住みたいと思ってもらうということだと思う。今住んでいる子どもたちが将来も住みたい、もしくは一度出て戻ってくることを考えてもらえるような種をまいておくことが大事だと思う。
- ・八王子市の人口は、都心部の人口増の中で増えてきた。住宅の戸数を確保するのに都合が良かったということだと思うが、その中で接道条件が悪いところなども多く存在する。すぐに出来ることではないが、都市計画の中で方向性を出しながら、郊外の良好な住宅地という環境をつくっていくことが必要。
- ・都内の市部は、どこも同じような問題を抱えていると思う。連携して取り組むことも大切。

【大島氏】

- ・区部との格差は昔からあり、同じ都内であっても違う地域であると感じている。

- ・八王子市ではベッドタウンとして開発が行われてきたが、今後の開発余地は少ない。今後は住みやすく、人に優しいまちづくりを行うことで、区部から人を呼びしかないのではないか。
- ・八王子駅前には子どもを連れて出かけられるような場所が無い。そのような場所づくりや子育て世帯への経済的な支援などが必要ではないか。
- ・市内には、まだ昔からのコミュニティが残っている。それを大事に守り、育てていくことが必要だと思っている。
- ・コミュニティの中で子ども達がまちを好きになり、育てていくようにしなければならない。
- ・市は「市民力」、「市民協働」ということを言う。私は、市民が何かやりたい、といったときに助言をしてくれるところが市役所であると思っているが、こここのところ市として市民力を活かす姿勢が弱くなっているのではないかと感じている。地域の力を出しながら、みんなで子育てをするというものにつなげるためには、市民力が必要である。
- ・魅力の発信というところでは、八王子の観光をどうする、という柱が定まっていないと感じている。市内には点々と観光地があるが、それをつなげる動線が無い。何か柱をつくってほしい。

#### 【落合座長】

- ・八王子商工会議所では、昨年120周年を迎えるに当たり、八王子の発展を支える産業の成長を促すための手立てを検討し、『「産業都市八王子のグランドデザイン」の提言』として取りまとめた。
- ・これは、産業分野の発展やそのあり方を議論するだけでなく、地域の中で様々な産業に携わる方の持続可能な事業繁栄と、市民の生き生きとした幸せな市民生活を同時に達成することが必要であるということで検討を行った。
- ・検討の中で、多くの領域にまたがる分野の調整や、具体的な行動と動機をコーディネートしていくのが商工会議所であると再認識した。
- ・『「産業都市八王子のグランドデザイン」の提言』であげられた取り組みにはMICE都市や物流型産業の集積など、既に動き出しているものもある。
- ・これらは、商工会議所だけで実施するものではない。政策軸の中に反映してもらいたいと考えている。

#### 【栗本氏】

- ・町会活動を行う中で感じていることだが、住民同士で挨拶が出来ないなど、余裕が無くなっているように思う。地域のつながりがなければ子育ての関係などにもつながっていかないと思う。
- ・環境整備として、川辺に集まり交流が出来る場が必要であると感じる。みんなが水に親しめる場所を作っていければいいと思う。

#### 【嵯峨氏】

- ・周辺自治体と話をすると、同じような悩みを抱えている。是非、八王子市には多摩地域最大の市として近隣自治体との連携を視野に入れた施策を実施してほしい。
- ・しごとづくりに関しても、多摩地域はベッドタウンとして都心部へ人の流れがある。通勤圏や商業圏、鉄道の沿線などのつながりから、近隣地域を巻き込んだ施策を実施してほしい。
- ・高齢社会を迎える中で、企業・事業の承継についての問題や、文化についても後継者がいない中で引退するなどの状況が発生すると思われる。既存の事業を守っていくという視点も入れることで良い循環になるのではないかと感じる。

#### 【中庭氏】

- ・交流人口の増加を目指す、という方向性は的確であると思うが、「八王子市の魅力の創生と発信」と、4つの政策軸に合致する事業を八王子ビジョン2022アクションプランからピックアップするというやり方で、本当に人口減少を食い止める戦略ができるのか疑問である。
- ・事業を、横串にも縦串にも刺せるような形でパッケージ化することが必要。パッケージ化についてもう少し分かりやすい資料があればと感じる。
- ・KPI（重要業績評価指標）として、市民のQOL（生活の質）を示すような指標を考え、それを満たすために政策軸をミックスした形でパッケージ化するという考え方が必要なのではないか。
- ・魅力の発信はとても重要。八王子の魅力資源をどの様に編集していくかが必要になる。魅力づくりを横串を刺して行うことが出来るDMOが必要ではないか。
- ・駅前歩いて楽しむ、周辺部は車の移動により楽しめるといった環境づくりも必要。これらをメニューとして示すことで、広域連携にも結び付くのではないか。

#### 【都市戦略部長】

- ・本市では、国が地方創生に取り組む以前から八王子ビジョン2022に基づき多岐にわたる施策の実現に向けて取り組んでいる。八王子ビジョン2022は、総合戦略よりも幅広い施策展開となっており、総合戦略はそこから重点的に取り組むものを取り上げていく考えであり、全てをリセットして一から作っていくというものではないと考えている。
- ・様々な意見をいただいたが、一番は魅力の創出と発信に尽きると考えている。
- ・多様な価値観の中で、どの様に政策を展開していくかという事について意見や提案をいただいたと受け止めている。今後いただいた視点を踏まえて取り組んでいきたい。

#### 【総合経営部長】

- ・八王子ビジョン2022は総合計画であり、市が実施する全ての施策を体系化している。また、アクションプランは八王子ビジョン2022をどの様に実現していくかという3か年の計画である。
- ・総合計画以外のことを実施することは基礎自治体としてあり得ないと考えている。総合戦略はどこに重点を置き、何にターゲットを絞ってどのように効果的に施策を組み合わせしていくかという事を示していくものであると考えている。
- ・時間軸も意識しながら、どこに重点を置き、どう見せていくかについて考えていく。

#### 【市民活動推進部長】

- ・市民活動推進部は市民の皆様を下支えする部署であると考えており、様々な部署をつなぐ役割を持っている部署である。しかし、先ほどご意見もあったが、市民活動という言葉が出ると全てが市民活動推進部の仕事であるという意識を職員が持ってしまうということを感じており、これは意識を変える必要があると思う。
- ・地域間の連携は私も必要であると感じている。また、海外から市の魅力を感じてもらえるような発信も必要であると考えている。

#### 【子ども家庭部長】

- ・市としては、これまで保育園を増やし、経済的支援も充実させてきたが、出生率は上がっていない状況である。
- ・現実として、母親となる女性の数も減少している。仮に出生率が上がっても子どもの数は増えていかないということもある。
- ・これからは、今までと違う視点での対策も必要であると考えている。まちなかに子どもを連

れて行くことが出来る環境や、若い年齢で子どもをつくるきっかけづくり、就労環境の整備などを組み合わせて取り組んでいくことが必要である。

【都市計画部長】

- ・本日様々な意見や提案をいただいたが、皆様が感じている課題と向かうべき方向のイメージは近いものだったのではないかと感じている。
- ・どこを目的にして、どんな手段をとるのか。ミクロとして捉えるべきか、マクロとして捉えるのか、といったところでの考え方にそれぞれ違いがあったのではないか。
- ・課題に対し、データを出して分析することが大切であり、しっかりとデータを踏まえて検討していきたい。

#### 4. 今後のスケジュールについて

《説明》

【事務局】

(配布資料3についての説明)

- ・当初、人口ビジョンを7月末までに策定し、その後総合戦略を策定する予定であった。しかし、人口ビジョンは将来展望にあたるものであり、総合戦略と随時反映・調整しながら策定を行うべきものであることから、総合戦略と同じ10月末までに策定することとした。
- ・次回の懇談会では、一定程度の素案をお示ししてご意見をいただきたいと考えている。

#### 5. その他

《説明》

【事務局】

- ・次回の開催日については、調整のうえ決定し連絡する。

《質疑》

【石川氏】

- ・資料については、1週間前くらいには送付してほしい。

(事務局から説明)

- ・出来るだけ早く送付するよう、対応する。

#### 6. 閉会